

モズク養殖技術交流会

中村勇次・甲斐哲也

1. 目的

国頭漁協モズク養殖グループは、現在モズク養殖1年目で、前期の養殖で半浮動式浮き流し養殖を試みて順調なスタートを切っている。しかし、モズクの出荷・流通等の知見がなく、まだまだ経験の浅い養殖グループである。よってモズク養殖の先進地である久米島漁協でのモズク養殖現場の視察及びモズク養殖生産部会との交流を通して、モズク養殖のノウハウや出荷・流通面での対策等を学習する。

2. 交流先

久米島モズク養殖生産部会

3. 日程

平成12年5月31（水）～6月1日（木）

4. 参加者

国頭モズク養殖グループ

知念勝治・嶺井稔・平良良文

沖縄県水産業改良普及所

中村勇次・甲斐哲也

5. 交流地の概要

久米島は、沖縄本島那覇市の西145kmに位置する仲里、具志川両村からなる離島である。久米島周辺には、共同第20号の漁業権が設定されており、採介、採藻、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業、クルマエビ養殖業等が行われている。また、同海域は、発達したリーフに囲まれた静穏な浅海域を島の東西に有することから、養殖や栽培漁業の推進に適した環境下にある。しかし、水産資源は、赤土流入等による環境悪化や乱獲等により年々減少傾向にある。久米島

周辺の沖合海域は、黒潮の影響を受け、曳き縄、一本釣り、パヤオ漁、ソデイカ漁の好漁場となっている。

6. 交流内容

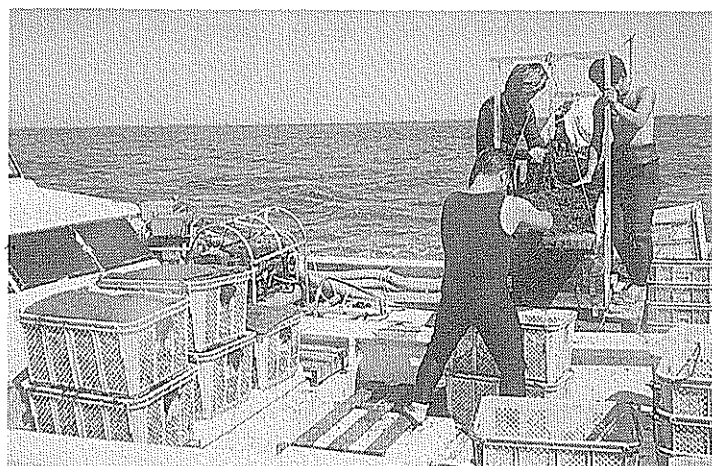
視察は11時30分に空港に集合して12時20分の便で久米島へ。久米島に着き1度ホテルへチェックインしてから昼食。その後、久米島漁協にて棚原組合長へ挨拶を兼ねて視察の趣旨説明及び久米島でのモズク養殖の現状について説明。14時30分から久米島漁協モズク生産部会会長仲吉氏の船にてはての浜より沖側にあるモズク養殖現場及び収穫状況を視察。現在久米島漁協では、3～5名のグループ単位でモズク養殖を行っており、8つのモズク養殖グループがあるとのことであった。また、グループ内でも収穫作業時には、潜ってポンプを使い収穫する班、船上で揚げってきたモズクを仕分けしてカゴ入れする班、モズクの入ったカゴを乗せて運搬する班に分かれて作業をしていた。国頭漁協モズク養殖グループも実際に潜り間近で収穫作業や付近のモズクの生育状況を見学した。現場視察後、1度ホテルに戻り午後7時から島内集会場にて懇親会を行った。懇親会では、生産部会長仲吉氏・顧問渡名喜氏から久米島でのモズク養殖状況・生産部会の活動・モズク出荷取引での価格調整等について話して頂き、大変有意義な情報を教示してもらい、深夜まで懇親を深めた。

7. 交流所感

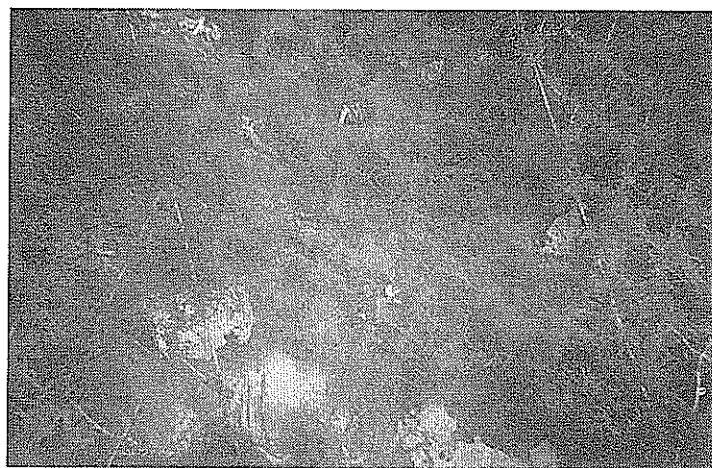
沖縄県内のモズク養殖漁業者は、ほとんどが個人か2～3名で養殖を行っており、これだけ大人数のグループで養殖を行っているのは久米島くらいである。近年、漁業の協業化という言

業か聞かれるが、漁業あるいは養殖業を行う場合に複数名で行うことによって、経費の節減・分業化による作業効率の向上等が図れるため有利である。このようなことから、久米島は県内一般のモズク養殖漁業者に比べて、モズク生産トン当たり経費は最も低いクラスに入るだろう。

よって、モズク単価の下落に対しても他漁協より耐久性のあるグループであると言える。国頭漁協が久米島のようなグループ単位での養殖方法をどのように取り入れていくかが今後の課題である。



モズク収穫時の船上での選別作業



久米島でのモズク養殖状況